

輝く卒業生たち

守山市立守山南中学校

高山 孝介さん

Profile

京都府出身。2010年3月滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程理数教育コース卒業。同年4月株式会社ニトリに入社し、販売、運営に携わる。退職後、講師を経て2012年高島市立マキノ中学校、2017年守山市立守山南中学校着任。2021年度に滋賀大学のCST(コア・サイエンス・ティーチャー)養成プログラムを受講。2022年度より認定CSTとして、地域の現職教員の理科指導にあたる。

社会経験を積んだ後に教壇へ 今後は教員指導にも尽力

教員になるため 卒業後は企業に就職

在学中、特に印象に残っていることは、太陽物理学を研究する大山ゼミでの学修です。天体観測実習で長野県を訪れたのですが、そこで見た星空は今も目に焼きついており、実体験の感動、興味を授業や勉強につなげていきたいと思いました。しかし、学部での充実した学びと先生の指導によって知識を養う一方で、大学卒業後すぐに、人を育てるという重責を担う教員になっていいのか迷いも感じるようになっていました。先生にも相談にのっていただいた結果、まずは一般企業に就職して、社会経験を積むことに決めました。

販売、接客業務が 教員の仕事に活かされる

就職したのはニトリです。店舗での販売のほか、アルバイト、パートの管理といった運営にも関わっていました。日々の仕事にやりがいを感じていましたが、改めてキャリアプランを考えた際、企業勤務の経験によって教員になる気持ちが固まったことから退職、教員採用試験の勉強に専念しました。試験勉強では卒業生にも関わらず、大山先生をはじめ、滋賀大学の先生には、小論文の添削などサポートいただき、無事、教員採用試験に合格することができました。ニトリでの接客業務の経験は、生徒や保護者と接するときに活かされています。



また、企業や社会で重視される効率的な働き方を身につけられたことで、授業やテストの準備、行事、部活動といった教員の業務もスムーズに遂行できていると思います。

滋賀県の理科教育の 中核となる教員に

教員10年目を迎えた2021年には、滋賀大学が滋賀県教育委員会、市・町教育委員会とともに実施している「理数系教員養成拠点構築事業」のCST(コア・サイエンス・ティーチャー)養成プログラムに推薦され、理数教育における指導力向上に取り組まれました。これまでも授業内容や指導方法の深化に努めてきましたが、昨今の教育現場、生徒の評価では論理的理解と表現が求められています。プログラムを通じてその重要性を再認識し、どうすれば子どもたちが興味を持って学ぶことができるか、滋賀大学の先生やCSTに認定された地域の理科教員の方々の教えを受けながら追求しています。教員はどんなに時代が変化しても人にしかできない仕事です。生徒の人生に何かしら良い影響を与えられたことを知ったときに、喜びを感じます。私の場合、理系を好きになってくれた生徒や、今、滋賀大学教育学部で教員をめざす教え子もいます。教育の勉強だけにとらわれず、さまざまなことを経験し、いろいろな人と出会うことも、教員になった時、授業や指導の幅を広げることに役立つはず。



大津市立真野小学校

青谷 紘子さん

Profile

滋賀県出身。2019年3月滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程初等教育コース(初等教科専攻図画工作専修)卒業。同年4月草津市立笠縫東小学校、2022年3月大津市立真野小学校着任。現在は4年生を担当。中学・高校時代は陸上部に所属していたが、大学では「新しいチャレンジを」と漕艇(ボート)部に入部。学業と並行して週5日の厳しい練習に打ち込み、大会でも好成績を取る。

図画工作を通じて、児童の心と 人生に必要な要素を育んでいきたい

豊かな感情も社会性も 育成する図画工作

私はモノ作りが好きで、その魅力を子どもたちに伝えたいと思い、初等教育コースの図画工作を専修しました。教師になって授業で心がけていることは、ゼミの藤田昌宏教授の教えである「まず教師が図画工作の教材、作る、描くことを楽しむこと」です。単に作り方、描き方を教えるのではなく、どこが楽しいのかを伝え、私も一緒に描く、作るようにすると、児童も夢中になって取り組んでくれます。図画工作が得意ではない児童が「もう1枚描きたい、もっと作りたい」と言ってくると、うれしいですね。図画工作は自分の感情や思考といった内面をアウトプットする作業でもあり、児童が恥ずかしさや拒否・拒絶感を抱かないよう、自由に、安心して表現できる環境・雰囲気をつくり出し、一人ひとりに応じた言葉をかけることも私の使命だと思っています。また、グループやクラスでの共同

制作は、コミュニケーションや役割分担、助け合いが必要。そういった意味では図画工作は社会性や協調性、人間性なども養う重要な科目であることも意識して、授業に取り組んでいます。

子どもとの関わり方の 大切さを学んだ学外活動

滋賀大学は専攻以外の科目も学べるので、特別支援教育に関する科目を履修し、特別支援学校教諭1種免許状も取得しました。在学中はスクールボランティアにも参加しました。多動や不登校といった子どもたちに接したのですが、そういった行動にはその子なりの理由があることを痛感。頭ごなしに注意したりするのではなく、じっくり話を聴くこと、その子の成長に合わせて寄り添うことや、居場所や安心感をつくることなど、一人ひとりとの関わり方を学ぶことができました。



さまざまな活動での経験が 試験、教師としての糧に

大学生活では漕艇(ボート)部に所属し、練習や試合に打ち込みました。授業や実習との両立は大変な面もありましたが、毎日が充実していました。教師になった今、児童たちに部活動をはじめ、大学生活での経験を話すことがよくあります。教員をめざす後輩や高校生の方には、部活動やボランティアといった学外活動、アルバイトなどにも取り組んで、いろいろな経験を重ねてほしいと思います。滋賀大学教育学部には、そういった機会が数多くありますから。教員採用試験合格に向けては、水泳やピアノといった実技も猛練習。教師経験が豊富で、教員採用試験の作成や面接官などを務めた実績も持つOB・OGの皆さんが個々に合わせて親身にサポートしていただけます。私も小論文の添削、面接や模擬授業で指導いただいたおかげで、志望通り滋賀県の教員採用試験に合格することができました。ぜひ皆さんも、学校の先生になる夢を叶えてください。

